

## 川の駅 伊豆ゲートウェイ函南 かわまちづくり

函南町 × 株式会社JM

### 取組概要

株式会社JM、函南町、国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所が、地元のにぎわいと地域の魅力創出のために、地元民に愛され、子供たちの思い出に残る場所づくりを目指し、子供が集い遊ぶ魅力のあるかわまちづくりを行った。



気球搭乗体験イベント



自主事業として開催したイベントの様子

### 基本情報

代表地方公共団体	函南町
代表民間団体	株式会社JM
他の連携団体等	静岡県、函南町観光協会、狩野川漁業協同組合、沼津市、伊豆の国市
カテゴリ	災害対策・防災・減災／地域振興・交流／文化・コミュニティ対策
事業費	
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	1年

### 取組内容



子どもたちの思い出に残る場所を目指して



地元団体との連携を図るイベントを開催

この取組で解決した課題	地域課題として求められたことは、少子・超高齢化が進むなかで、高齢者や子育て世代が快適に生活できる環境を実現し、合わせて環境資源や地域ブランドを活かした情報発信により、交流人口の拡大や移住・定住人口を増加させることであった。人が集まり子供が遊び、にぎわう場所の創出が課題。
解決に向けた手法	静岡県、函南町観光協会、狩野川漁業協同組合、沼津市、伊豆の国市と連携し約3年下記項目について取り組み、川の駅 伊豆ゲートウェイ函南を1日6500人を集める場所にした。 ・快適に過ごせる施設整備を目標に、河川を利用しての地域の憩いの場・地域活性化の拠点を創造 ・交通の拠点にもなる立地条件から、川の駅とともに水防多目的センターや防災ステーションも整備 ・函南町かわまちづくり計画のテーマ「あそぶ・まなぶ・つながる」を子供たちが体験できる魅力的な各種イベントの開催 ・都市・地域再生等利用区域に指定したことにより、各種マルチエをはじめとした賑わいを創出

## 取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	管理者・・・函南町、株式会社JM（指定管理者） 業協同組合、静岡県、函南町、国交省 業務・・・中部地方整備局、沼津河川国道事務所 地域との合意形成・・・地元区長、函南町観光協会、狩野川漁業協同組合、近隣市町村との連携強化・・・沼津市、伊豆の国市、民間事業者 許可申請
地域関係者との連携方法	にぎわい創出のために地元出店者拡大と地域住民の参加呼びかけを行った。特に函南町塚本地区狩野川利活用調整会議・狩野川流域河川空間利用連絡協議会を実施し、地元区長、函南町観光協会、狩野川漁業協同組合、静岡県、函南町、国交省を巻き込み、加えて、順天堂大学、田方農業高校、月光天文台、酪農王国オラッチェ、国際ドッグビジネス専門学校など地元の学生や企業の協力でイベントを開催した。
資金調達方法	函南町の予算とJMの資金・自主事業による収益
資金調達方法の補足	事業開始1.2年目は、株式会社JMが3000万出資
事業推進上の課題・工夫	川の駅は、函南町かわまちづくり協議会が策定した「塚本地区かわまちづくり計画」により、スポーツツーリズムなど観光・体験の拠点となるよう、船着き場やワンド、芝生広場、シャワー室、コインロッカーなどを整備したことにより、水辺を利用したカヤックや水遊びなどのアウトドアスポーツを楽しめる場として利用され、現在は、定期的なカヤック体験が開催されるなどアウトドアスポーツの拠点となっている。 また、施設内にドッグランを整備したことにより、利用者や犬同士の交流の場となり、心地よい水辺空間の憩いの場として、リピーターも含め利用者が増加している。自主事業に関しては、指定管理者が地元団体などと連携し、施設を効果的に使用することで、多くの魅力的なイベントを展開している。 何度も訪れたいような地域に愛される施設づくりを念頭に、子供が集い遊ぶ魅力的な水辺空間を生み出すため、「イベント型」と「常設型」の2種類の自主事業を展開し、来場者を増やし賑わいを創出している。

## 担当者のコメント

川の駅はこの3年間で認知が広がったことから、様々な団体や企業と協力して事業を進めることができました。台風の直撃で、川の駅の芝生広場が冠水し復旧に約2カ月要するというトラブルもありましたが、地元の方との数々の出会いやご協力のおかげで、年々地元の方に愛される場所になっていると感じています。2022年度は、開業4年目になりますので、函南町商工会や函南町観光協会、町内観光施設、地元の学校、企業など関係各所等との新しい企画を創出し、函南町の観光促進及び賑わいの創出に役立つよう取り組みます。皆様が函南町の川の駅「伊豆ゲートウェイ函南」に興味を持ち、お越しただけだと嬉しいです。



川の駅伊豆ゲートウェイ函南駅長 川口早

## 優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 荒れていた河川敷を整備し、芝を敷いて公園にしその管理や河川の護岸の掃除を行うため、地元の人を雇用して維持管理している。ハコモノを作るのではなく、ソフト面でイベントを開催（気球体験やマルシェなど）しているので、CO2を排出することなく環境に配慮した事業である。何もなかった場所に雇用を生み、にぎわいを創出することで、住み続けられる街づくりに貢献している。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 函南町や国及び静岡県、地域住民、教育施設、町内関係団体、民間事業者等で組織する協議会を定期的に開催して、川の駅の運営等について情報共有するとともに、「塚本地区かわまちづくり計画」に基づいた効果的で効率的な施設の利活用について協議・検討をしている。 また、川の駅の供用開始前に、都市・地域再生等利用区域の指定を受け、函南町が河川管理区域の占有主体となり、民間事業者からの施設使用料などを川の駅の維持管理・運営費に充てている。 安全で良好な施設環境を維持するため、函南町や国と連携し、通常時においては、安全管理に関する打合せや現地確認を定期的に行って、指定管理者が適切な施設の維持管理・運営に努めている。このように、函南町を中心に地元の方がファンになってくれるような場所を作るため、各ステークホルダーとの連携を重んじている。</p> <p>③モデル性・波及性 狩野川沿いの隣町である伊豆の国市で、同じようなモデルを展開している。今後、他の市町での取り組みも可能である。</p>
----------------	--